

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年11月)	今回(平成30年2月)	
景況判断	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	

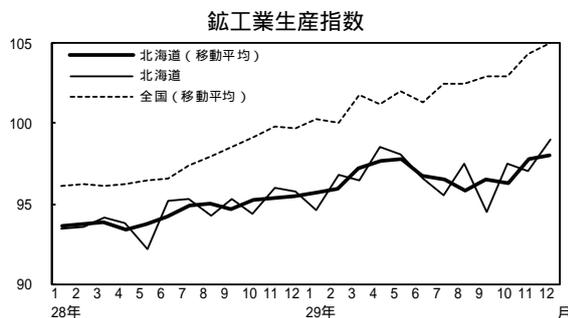
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は生乳生産は前年を上回り、水産物の水揚量は前年を下回っている。

10 - 12 月期には、生乳生産は総量では 970,741t と前年比 2.5% 増となり、乳製品向けが増加した。水産物の水揚量(主要 8 港)は、さんま等が減少したため、前年比 2.2% 減となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10 - 12 月期には、食料品は、生乳生産量が増加したことによりバターや練粉乳等が増加した。パルプ・紙は、生産設備のトラブルにより板紙が減少した。電気機械は、無線通信装置、集積回路、シリコンウエハ等が増加した。鉄鋼は、出荷が好調なことから在庫の積み増しをしたため、特殊鋼棒鋼等が増加した。輸送機械は、エンジン等が増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
食料品	24.2	3.5	0.2	1.7	1.3	0.1
パルプ・紙	11.9	1.6	1.5	3.9	1.3	2.3
電気機械	11.7	9.6	9.7	7.5	2.5	7.4
鉄鋼	7.5	3.1	8.4	7.8	0.9	2.2
輸送機械	7.0	2.3	7.5	6.0	6.9	10.3
鉱工業	100.0	1.9	2.1	3.2	0.5	2.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

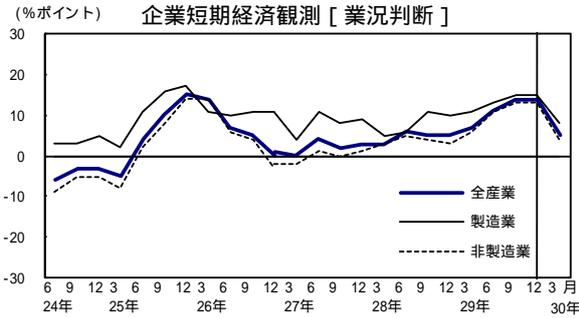
2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(備考) 1. 22 年 = 100、季節調整値。最新月は速報値。

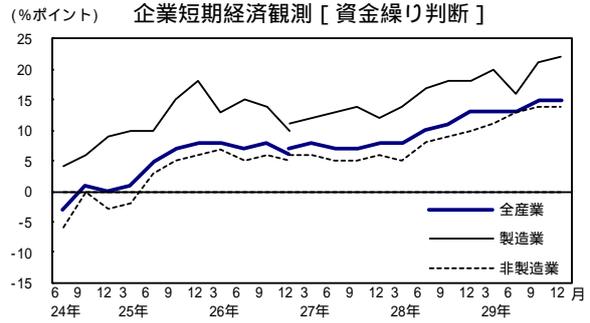
2. 全国及び北海道の大線は中心 3 か月移動平均、
直近月は 2 か月平均。

(3) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

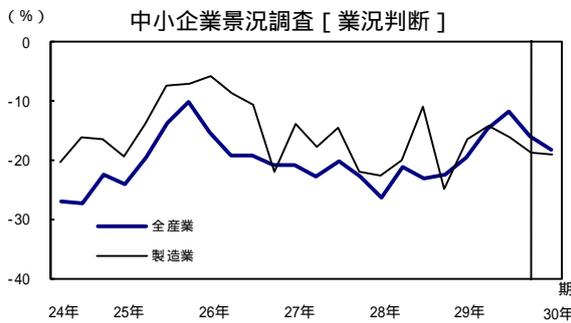
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年3月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

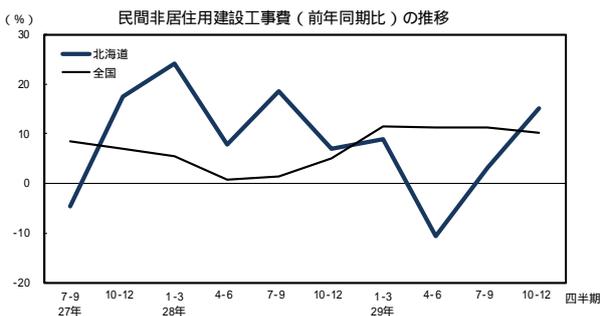


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「市場の稼働日数が少なかったこともあり、主力商材の販売量が2～3か月前の平均と比べて20%減少しているが、当初の予測数値よりは伸びていることから、景気はやや良くなっている(その他非製造業[鋼材卸売])」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。



(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

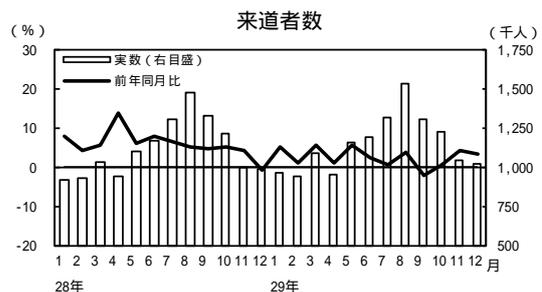
	28年度実績	29年度計画
全産業	21.0	25.3(1.7)
製造業	18.6	55.9(2.8)
非製造業	21.9	13.2(1.1)

(備考)1.()は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2.リース会社対応ベース。

(5) 観光は増加している。

来道者数は、新幹線効果の反動減がみられたものの増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.8%減、11月は同0.6%増、12月は同1.3%増となった。

百貨店・スーパー販売額

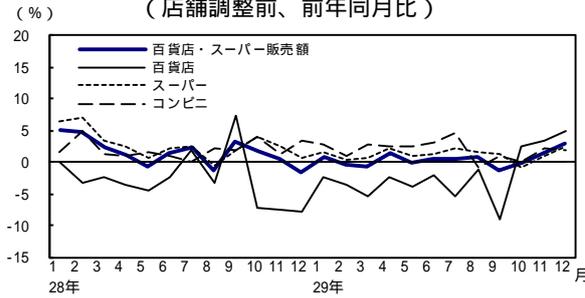
百貨店は、10~12月いずれの月においても、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を上回った。

スーパーは、10-12月期は、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

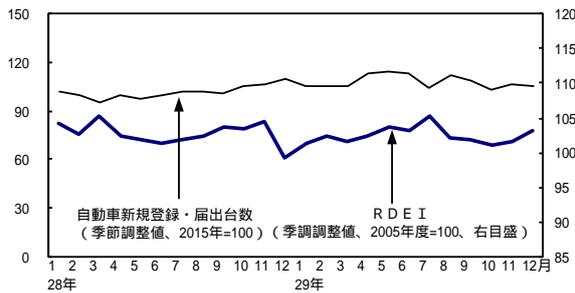
「景気回復が進まないなか、野菜の価格高騰の影響で、客が消費を抑える傾向がみられる。客の先行き不安も依然として強い(高級レストラン)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	29年10-12月	29年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.1	0.8	0.6	1.3
百貨店・スーパー(*2)	1.5	0.1	1.4	3.0
百貨店(*2)	3.8	2.6	3.5	5.0
スーパー(*2)	0.9	0.8	0.8	2.4
コンビニ(*2)	1.3	0.1	2.2	1.8
乗用車(*3)	0.7	0.5	0.5	2.1
(季節調整値)(*3)	3.0	4.7	2.6	0.4

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

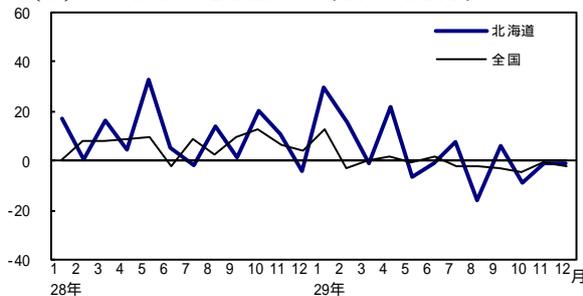
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

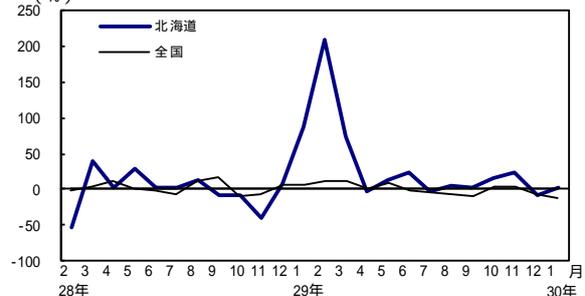
貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。

新設住宅着工戸数 (前年同月比)



公共工事請負金額 (前年同月比)

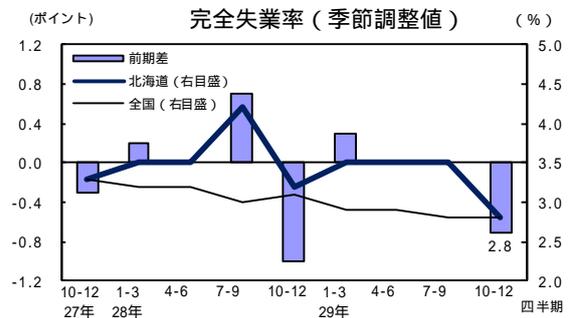
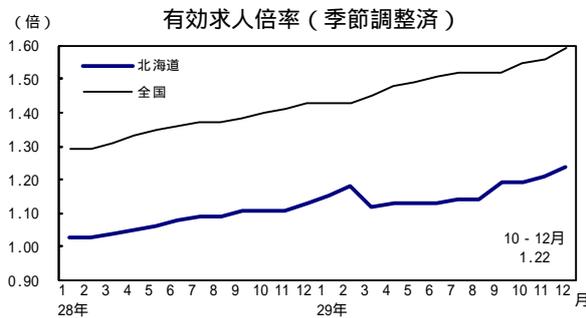


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[雇用関連(現状)]

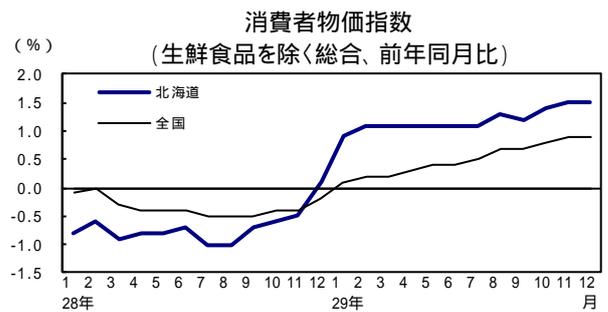
「企業の求人意欲はあるものの、求職者の動きが鈍い(求人情報誌製作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は増加、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	30年1月
倒産件数 (前年比)	79 16.2	74 17.5	59 20.3	65 3.2	19 11.8
負債総額 (前年比)	99 73.8	83 23.3	138 80.3	385 449.8	49 628.0



景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・例年よりも天候が悪く、フェリーの欠航回数が増加している(その他サービスの動向を把握できる者[フェリー])

<先行き>

・今後についても、外国人観光客や大都市圏との行き来をする国内客が増え続けることが見込まれ、それに伴い当施設の消費も増えてくることが見込まれる。特に好調な中国人観光客や韓国便の増便が大きく寄与する(一般小売店[土産])

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

